



The 57th Annual Meeting of Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

第57回 日本小児アレルギー学会学術大会

教育セミナー1

アトピー性皮膚炎の 新しいバイオマーカー **SCCA**



日時

2020年 **10**月**31**日 **土** 12:10 ~ 13:00

会場

第**1**会場 パシフィコ横浜会議センター
1F メインホール

座長

大矢 幸弘 先生
国立成育医療研究センター アレルギーセンター長

演者

藤澤 隆夫 先生
国立病院機構三重病院 院長

当日は、教育セミナー整理券を配布いたします。

■配布場所：パシフィコ横浜会議センター 1F

■配布時間：10月31日（土）8:00 ~ 11:30

※整理券は、セミナー開始5分に無効となりますのでご注意ください。

アトピー性皮膚炎の新しいバイオマーカー SCCA

国立病院機構三重病院 院長

藤澤 隆夫 先生

バイオマーカーには 1) 診断 2) 病勢評価 3) 治療選択 4) 予後予測 等への応用が期待されているが、アトピー性皮膚炎 (AD) では 2) で検討が進んでいる。とくに AD の病勢の臨床的評価法である SCORAD や EASI は定量的ながら、実施はやや煩雑で評価者や評価タイミングによってばらつきが生ずることもある一方、バイオマーカーは簡便・客観的で、より臨床を反映する可能性をもつからである。現在の AD ガイドラインには病勢マーカーとして血清 IgE、LDH、末梢血好酸球数、血清 thymus and activation-regulated chemokine (TARC)、SCCA (squamous cell carcinoma antigen) が紹介されているが、特に信頼性が高いとされるのは TARC と SCCA2 である。TARC は Th2 細胞に特異的に発現するケモカイン受容体 CCR4 のリガンド (CCL17)、SCCA はセリンプロテアーゼインヒビターで、主に上皮に発現する蛋白である。これまで TARC は広く臨床で利用されて報告も多いので、本発表では新しいマーカーである SCCA についてレビューしたい。

SCCA は始めに子宮頸癌より分離されたことから、このような名前となったが、IL-4 や IL-13 など Th2 サイトカイン刺激で誘導され、皮膚における Th2 免疫反応の downstream molecules であることがわかってから、AD のマーカーとして注目された。私たちは多施設共同研究で、非アレルギー健常児とアトピー性皮膚炎児を対象に、SCCA2 の意義を他のマーカーとも比較しながら検討したところ、正常とのカットオフ値が TARC は年齢で異なる (低年齢で正常値が高い) のに対して、SCCA2 は一つのカットオフ値でよいこと、AUC も比較的高く、病勢を表す SCORAD とよく相関することを見いだした。単施設であるが別の集団で、ISAAC で分類した正常児、AD がない喘息児、AD も喘息もないアレルギー性鼻炎児、AD 児に分類して、血清 SCCA2 を検討したところ、前 3 グループでほぼ同じレベルであり、AD グループでのみで SCCA2 が有意に高値と、アレルギー疾患の中でとくに AD に特異的であることも観察した。さらに、入院治療を要する重症 AD 患者の検討で、SCCA2 が SCORAD と高い相関を示すとともに、治療による症状改善とともに低下、治療前後の SCCA2 の変化と SCORAD の変化の間にも高い相関がみられた。

以上、SCCA2 は AD の鋭敏なバイオマーカーとして有用と考えられた。